

遺伝子改変マウスを用いた胃酸分泌抑制に伴う高ガストリン血症の分子機構の解明

(課題番号 16590639)

平成16年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))

研究成果報告書

平成18年3月



研究代表者 齊藤 寿仁

東京女子医科大学 医学部 講師



は し が き

胃酸関連疾患に対して酸分泌抑制療法を施行すると高ガストリン血症がおこる。プロトンポンプ阻害剤やヒスタミン2受容体拮抗薬の服薬によって誘起される高ガストリン血症の発生機序をヒスタミン2受容体欠損マウスを用いて検討した。

研究組織

研究代表者 : 齊藤 寿仁 東京女子医科大学医学部 講師

研究分担者 : 大塚 洋子 東京女子医科大学医学部 助手

研究分担者 : 高橋 春樹 東京女子医科大学医学部 助手

研究分担者 : 福嶋 康之 東京大学医学部 医員

(研究協力者 : 藤波 典子)

交付決定額

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	2400千円	0円	2400千円
平成17年度	1200千円	0円	1200千円
総計	3600千円	0円	3600千円

研究発表

(1) 学会誌等

- 1) Yasushi Fukushima Toshimitsu Matsui
Toshihito Saitoh et al.
Unique roles of G protein - coupled histamine H₂ and gastrin
receptors in growth and differentiation of gastric mucosa
European Journal of Pharmacology 502 (2004) 243 - 252

- 2) 齊藤寿仁 大塚洋子 倉井宏明
大川真一郎
胃食道逆流症の病態と診断
口咽科 16 : 213~217 2004

- 3) 齊藤寿仁 大塚洋子 倉井宏明
川崎孝弘 平川順子 森 治樹
作用発現速度におけるPPI・H₂RAの比較
臨牀消化器内科 20 : 1111~1118 2005